化学委員会 IUCr 分科会（第 25 期・第 6 回）・化学委員会・物理学委員会合同結晶学分科会（第 25 期・第 6 回）合同会議 議事要旨

日時：令和 4 年 5 月 28 日（土） 10：00～12：00

場所：遠隔会議（zoom）

出席者：秋山修志[†]、阿久津典子^{†,*}、井上 豪^{†,*}、奥部真樹^{†,*}、片岡幹雄^{†,*}、上村みどり^{†,*}、黒田玲子^{†,*}、小島優子[†]、小林昭子[†]、菅原洋子^{†,*}、高田昌樹^{†,*}、高原淳^{†,*}、難波啓一^{†,*}、西野吉則^{†,*}、野田岳志[†]、森吉千佳子^{†,*}、山下敦子[†]

欠席者：栗原和枝^{†,*}、佐々木 園[†]、菅原 正[†]、富安亮子^{†,*}

（[†]結晶学分科会委員、^{*}IUCr 分科会委員）

<配布資料>

資料 1：第 26 期日本学術会議会員候補者の選考方針

資料 2：第 184 回総会資料より討議参考資料

議事

1. IUCr 分科会関連審議および報告

(1) IUCr 総会に関わる審議と報告

IUCr2023（2023 年 8 月 22 日-29 日）の会期中に開催される総会において新執行部の選挙が行われる。高田委員の IUCr 理事としての任期（6 年）が満了を迎えることから、次期理事候補推薦の方針について審議を行い了承された。また、21 科学分科会委員候補について各国の国内委員会からの推薦の締め切りが 6 月 30 日であり、日本からも推薦を行うことが報告された。

(2) IUCr2023 の準備状況について

高田 IUCr 分科会委員長より IUCr2023 の準備状況についての報告があり、講演申し込み、参加登録などのタイムスケジュールがこれまでとは異なっており、関連学会への広報が要請された。

(3) IUCr2023 国際プログラム委員会（IPC）について

IPC 委員の尾関氏（日本大学教授：オブザーバー参加）より IPC 報告があった。4 月 21 日、22 日にわたりハイブリッド開催された IPC で、IUCr2023 の学術プログラムがどのように審議されたかが説明された。全体講演（PL）3 件、基調講演（KN）39 件、シンポジウム（MS）130 件で構成される予定で、PL や KN についてはジェンダーや地域バランスに強く配慮した構成になっていることが報告された。同じく IPC 委員の中川氏（大阪大学教授：オブザーバー参加）から補足説明があった。

(4) その他

IUCr2023 において授与される Ewald Prize と Bragg Prize の応募・推薦の締め切りが 8 月 31 日であり、推薦について高田委員長まで連絡がほしいとの依頼があった。

2. 結晶学分科会関連審議および報告

(1) 連絡会議について

1) 「持続可能な発展のための国際基礎科学年 IYBSSD2022」について菅原委員から全体説明があり、

連絡会議の活動について上村連絡会議担当委員から報告があった。キックオフとなるフォーラムが7月29日に開催される予定であり、結晶学関連としては藤田誠氏（東京大学）、田中啓二氏（東京都医学総合研）の講演が予定されている。また、IYBSSDのイメージビデオが作成される予定で、結晶学分科会からは次世代放射光施設の資料が提供されていることが報告された。

2)「カーボンニュートラルに関する連絡会議」について、小島連絡会議担当委員より報告があった。第一回連絡会議が9月16日、カーボンニュートラルにむけた学術フォーラムが3月13日に開催されたことが報告された。学術フォーラムは、今後4半期に1回程度開催されていくことが予定されている。6つのカテゴリーのうち結晶学はカテゴリーDの「カーボンニュートラルのための学術、テクノロジー開発」に入り、貢献していくことが確認され、次の学術フォーラムについて4名の研究者を推薦していることが報告された。

3)「パンデミックと社会に関する連絡会議」について菅原洋子委員長から連絡会議の活動状況について報告があった。まだ一部のワーキンググループ(WG)のみが動いている状況であるが、結晶学分科会が積極的に関与すべきとの意見があり、井上委員、上村委員が連絡会議WGへの参加を申し入れることになった。

(2) シンポジウム共催および企画について

菅原委員から日本結晶学会年会(期間2022年11月26日、27日、開催地 関西学院大学)においてIYBSSD2022協賛シンポジウムが計画されており、結晶学分科会・IUCr分科会が共催することについて提案があり、了承された。対面形式で開催し、近隣の大学等を主対象として一般公開すること、物理分野、化学分野、生命分野から各一講演が計画されていること等が報告された。また、IYBSSD2022は来年6月まで続くことから、「カーボンニュートラルに関する連絡会議」との連携も含めたWebシンポジウムを分科会として企画することを了承した。

3. その他

(1) 総会、第3部会、化学委員会の活動についての菅原委員長よりの報告

1) 日本学術会議総会が4月18日、19日に開催され、日本学術会議の任命問題、日本の研究力強化、研究DXの推進などについて審議が進められていることが報告された。また、第26期日本学術会議会員候補者の選考方針(配布資料1)、「未来の学術振興構想(仮称)」の策定方針、分科会設置等の見直し(配布資料2)などの資料が事前配布され、参照することが依頼された。

2) 化学委員会、化学企画分科会の下に、「科学技術立国を支える化学系博士人材の育成支援小委員会」が立ち上がったこと、分子研所長招聘会議として6月7日に「日本の人材育成を考える」をテーマとしたシンポジウムが開催されることが説明された。

(2) 今後の計画

1) 6月7日に分子研所長招聘会議、11月に日本結晶学会年会におけるIYBSSD2022協賛シンポジウム、12月に化学委員会合同分科会が予定されていること、また、Webシンポジウム計画とかかわり分科会の追加開催の可能性があることが確認された。

2) 菅原洋子委員長は本年6月で日本学術会議会員の定年を迎え、連携会員になることが予定されているが、25期は、物理学委員会・化学委員会結晶学分科会委員長を菅原委員が継続して務めることを満場一致で決定した。